

コツコツ頑張って、大台達成しました

山口県下関市立豊浦小 1100 万点

山口県下関市の中心部から北東へ約 8km、江戸時代に長府藩 5 万石で盛えた城下町に、同市立豊浦小学校（井上成人校長・児童 901 人）はあります。周囲は今も古い街並みと神社・仏閣が残り、当時の武家屋敷の練塀は市の有形文化財です。今年 2 月、累計点数が県内で初めて 1100 万点を超えました。参加 56 年・154 回目の送付での達成です。



同校では PTA のことを育友会と呼び、ベルマークは厚生部が担当しています。月初めの「ベルマークの日」に回収したマークを、各クラスの厚生部の委員が家庭で会社別の袋に仕分け、枚数と点数を記入します。

全体集計は学期に 1 回、隣接する教育資料館で行います。毎回、ほぼ全員の委員が参加し、真剣に集中して作業します。厚生部長の谷口真弓さんは「皆で助け合って活動しているので充実感があります。仕事をしている方が多いので、少しでも負担を減らせるように工夫しながら続けていきたい」と話してくれました。

昨年度の部長を務めた篠田美千代さんによると、豊浦小はベルマークに意欲的な家庭が多いそうです。「先生方や学校を訪れる保護者がいつでもマークを入られるよう、事務室の前に回収箱を置いています」。



児童の関心を高める工夫も。毎月各クラスの一人平均の枚数を校内放送で発表するほか、学期ごとにマークの枚数を多く集めたクラスを表彰しています。また毎年 11 月の「とよら祭」では、マーク 5 点で 1 回くじを引ける「ベルマークくじ」コーナーを設けているそうです。こうした活動の成果として、昨年度は目標だった運動会の優勝旗を購入できました。

育友会の活動について井上校長は、「大規模校なので集まるマークも多く、整理が大変だと思いますが、いつも熱心に活動して下さっています」と感謝を語りました。



鹿児島県指宿市立丹波小 700 万点

1970 年 7 月にベルマーク運動に参加した鹿児島県の指宿市立丹波小学校（川上哲博校長、児童 535 人）が今年 2 月、県内で初めて累計 700 万点を達成しました。財団にマークを送った回数は計 133 回、1 回平均 5 万点余りになる計算で、地道に、着実に点数を積み上げた結果だといえそうです。



JR 指宿駅で、授業の一環として手作りの観光パンフレットを配っていた丹波小の子どもたちが、学校まで案内してくれました。榊宏三教頭先生のお声かけで、PTA 厚生部の昨年度部長・東明代さん、同副部長の山口晴奈さん、今年度 PTA 会長の池増慎吾さん、同副会長の北蘭ゆう子さんに集まっていた、話をうかがいました。

厚生部は月 1 回集まってマークの仕分け・集計作業をし、学期毎に発送します。保護者間のコミュニケーションの場として厚生部は人気だとのこと。活動を経験した人の意識は高く「冷蔵庫に一覧表を貼り、買い物ではベルマークのある商品を探します」。各クラスのサッカーボールや家庭科で使うアイロン、体育館のマットなど、マークで買ったものもたくさんあるといえます。



昨年度は協賛会社のスミフルジャパン（ベルマーク番号 70）のキャンペーンに当選。もらったバナナを使い、秋の PTA のバザーで「ベルマークを持ってきたらバナナをあげます」というイベントを開きました。バナナについているマークも含め、かなりの点数を集めることに成功したそうで「きっと、それが 700 万達成に最後に役立ったのでは」と東さんたち。



池増さんは「取材を受けて 700 万点という価値を理解できました。丹波小のベルマーク運動が今後も発展するよう、これからも協力してやっていきたいです」と話してくれました。

池増さんは「取材を受けて 700 万点という価値を理解できました。丹波小のベルマーク運動が今後も発展するよう、これからも協力してやっていきたいです」と話してくれました。

川崎市立菅小学校 800 万点

校門に「ありがとうのバトンをうけつぎ、未来へむかって進もう菅っ子」というパネルがある神奈川県川崎市立菅小学校（戸塚裕康校長・児童 862 人）。創立 140 周年記念で作られたそうで、今年で 142 年という伝統校です。1964 年からベルマーク運動に参加し、今年 2 月に累計点数 800 万点を超えました。



7 月の全体集計日。午後 1 時、PTA ベルマーク委員会の委員長・八木澤恵美さん、副委員長の榊原周子さん、ベルマーク担当本部役員・杉本悦子さん、応援に駆け付けた PTA 会長の木村徹さん、さらに各クラス 1 人ずついるベルマーク委員の皆さんが集まり、作業を始めます。

回収月は年 7 回。委員が自クラス分を家庭で事前集計して持ち寄ります。全体集計では封筒や紙コップを使ってそれをまとめ直し、ダブルチェックも欠かしません。回収箱は近隣スーパーにもあり、「思っていたより回収量が多く、地域の人の協力で成り立っていることを知って驚いた」という声が挙がるほどだそうです。作業が進むうちに、授業を終えた「菅っ子」たちがお母さんの仕事の様子を見にきました。

活動について八木澤さんは、「歴代の先輩たちが残してくれた資料はあるが、どんな方法がいいのか模索中」。また榊原さんは「家庭で事前集計できるほど、学校全体がベルマーク収集に協力的です」と周囲への感謝を口にしました。



昨年度委員長を務めた伊達絵美さんは、800 万点達成について「協力いただける全ての方々の善意で成り立つ活動なので、負担を少しでも減らせるように心がけた」とコメント。また同副委員長の糟谷由美子さんは「へき地校や災害被災校への支援にもなる、やりがいのある活動だと思うので、今後もコツコツ続けていきたいです」と語ってくれました。

「西日本豪雨」被災校への支援をお願いします

ベルマーク「友愛援助」&ウェブベルマーク「くじ付き募金」など

7 月の西日本豪雨の被災校を支援するため、ベルマーク教育助成財団は緊急の友愛援助を引き続き募集しています。

友愛援助は、ベルマーク預金を使って直接資金を寄付することができる仕組みです。今回の豪雨では、浸水被害を受けたり、校舎が避難所として使われたりして、休校を余儀なくされた学校も多く、また自宅が被災して学用品を失った子どもたちもいます。厳しい環境に置かれた子どもたちに、どうか温かい支援の手を差し伸べてください。

協力していただける学校・団体は、財団ホームページの「ダウンロード」→「各種申込書」にある申請書に必要事項を記入して財団までお寄せ下さい。今年 12 月末まで受け付けます。

また、一般社団法人ウェブベルマーク協会も西日本豪雨被災校への緊急支援活動を始めています。

ウェブベルマークのホームページを経由してネットショッピングをすると、東日本大震災被災校への支援ができ、同時に自分が指定した学校にもベルマーク

点数がたまる——これがウェブベルマークの仕組みです。その学校指定機能に「西日本豪雨支援」という項目が追加されました。「広島市」「倉敷市」「宇和島市」の各小学校を検索すると、リストの最後に出てきます。マイページ登録時にこの項目を選べると、支援金はベルマーク財団に助成され、被災校全体のために使われます。すでにマイページ登録をしている方は「登録情報変更」から同様に「西日本豪雨支援」を選択してください。今年 12 月まで受付予定です。

またウェブベルマーク協会は、西日本豪雨の被災校に向けて、くじ付きのネット募金もしています。「Yahoo! ネット募金」を通じて、クレジットカードまたは T ポイントで 1 円（1 ポイント）から寄付できます。10 月 31 日の受付終了までに寄付された方の中から、抽選で 1 名に Samantha Thavasa のトートバッグ「サマンサ レディマイン」（株式会社サマンサ タバサジャパンリミテッド提供）をプレゼントします。詳しくはウェブベルマークの公式ブログで。